

M. ライス、D. ナミュアシュ『高齢者が虐待された時』(トロントカプタス出版, 1995, pp. 15-26)から引用。
複製許可有

ダフネ・ナミュアシュとマーナー・ライスが開発したツールの利用について、さらにお知りになりたい実践家や保健・福祉等機関には、彼らがコンサルタントとしてお役に立ちます。

どうぞ www.nicenet.caをご覧ください。



National Initiative for the Care of the Elderly
222 College Street, Suite 106, Toronto, Ontario M5T 3J1
Tel: 416-978-2197 • Website: www.nicenet.ca



Networks of Centres
of Excellence
Réseaux de centres
d'excellence



Networks of Centres
of Excellence
Réseaux de centres
d'excellence

介護者の虐待スクリーニング (CASE)

CASEとは何か?

CASEは、高齢者虐待を選別する方法であり、虐待が疑われるか否かに関わらず高齢者を介護しているクライエントすべてに使うものである。8項目の質問のそれぞれにおいて「はい」という回答が、他の方法では見落としてきたような虐待/ネグレクトを明らかにするような会話を導く可能性がある。

CASEは現在の介護者の虐待の状況がわかるだけでなく、状況の改善がなくても、CASEを使って介護者と話し合うことで、将来虐待につながりうる介護者の傾向やストレスがみえる場合がある。このような場合に事前に予防的アプローチを行えば虐待に発展するのをくい止めうる。

CASEは次のように解釈する。介護者が全項目を埋めた後に「はい」の数を集計する。「はい」が多ければ、多いほど虐待の可能性がある。支援のための情報として「はい」の回答それぞれについて精査する必要があり、ソーシャルワーカーらは介護者に「はい」の理由を尋ねて、個々の状況のアセスメントを試みるべきである。

「プロジェクトケア」では虐待している介護者グループの「はい」の数の平均は3.3で中央値は4であった。本研究における2つの非虐待の介護者グループの平均は1.9で中央値は2であった。ライス博士とナミュアシュ博士は、地域保健福祉を包括的にサービスする機関(CLSC・NDGモントリオール)を拠点に設置した「プロジェクトケア」において、虐待が疑われるケースの見極め、虐待問題に対処のための実施計画書と実践的技法の確立のために、スクリーニングツールと実践モデルを開発した。実践モデルは、地域で生活していて、ヘルパーや家族の手助けが必要な高齢者の虐待の支援に関わるツールとこれらの現場への活用に焦点を当てている。このモデルを使った現場実践を通してこのモデルは評価され、また高齢者虐待に関わるツールの有効性の調査研究も実施済である。

介護者の虐待スクリーニング (CASE)

ヘルパー又は介護者として以下の質問にお答え下さい。

- | | |
|---|---------|
| ① 介護している人の怒りや攻撃をコントロールするのに、時々苦労しますか? | はい□いいえ□ |
| ② 生来の自分と違う行動をせざるを得ない、又は自分が悪いことをしたと感じることが、しばしばありますか? | はい□いいえ□ |
| ③ 介護している人の行動への対応が困難であることに気付きますか? | はい□いいえ□ |
| ④ 介護している人を乱暴に扱わざるを得ないと感じることが、時々ありますか? | はい□いいえ□ |
| ⑤ 介護している人に、必要なこと又は行うべきだと思ってもできないと感じることが、時々ありますか? | はい□いいえ□ |
| ⑥ やむを得ず介護している人を拒否したり、無視したりすると感じることが、しばしばありますか? | はい□いいえ□ |
| ⑦ 介護している人のニーズに応えられないような疲労を感じることが、しばしばありますか? | はい□いいえ□ |
| ⑧ 介護している人を、しばしば怒鳴りつけたりなりますか? | はい□いいえ□ |